



「知ろう!アルツハイマー・認知症」関連本の展示

広島県 三次市立図書館

基本データ

所在地	広島県三次市十日市東 三丁目14番1号
職員数	9人
うち司書数	8人
蔵書数	約150,000冊
利用登録者数	約25,000人
年間貸出冊数	約210,000冊
(児童用図書貸出数 約110,000冊)	

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】複合化、空間づくり

【活動のねらい】

- 同じ複合施設内ながら連携のなかった地域包括支援センターと連携事業を行い、これをきっかけに関係を深めること。また、センターと連携して認知症に関するイベントを行うことで広く市民に関心を持ってもらうこと。

取組・活動の概要

- 三次市内では「地域包括支援センターみよし」が中心となり、認知症についての理解を深めるための啓発活動として行っていたが、平成30年度からセンターの依頼を受け、三次市立図書館でも一緒に関連本の展示を行うことにした。
- センターでは期間中にパネル展示やイベントを行い、図書館では、「アルツハイマー月間」に「知ろう!アルツハイマー・認知症」をテーマに展示をおこなった。また、センターから期間中の行事やアルツハイマーの理解を得るための啓発のチラシを提供してもらい、資料と一緒に置き、持ち帰り出来るように配置した。

取組・活動の工夫や特徴

- 広島県立図書館の地域連携事業として30冊の資料を借受け、当館の資料と合わせて100冊の関連本を紹介した。資料内容も絵本から専門書まで幅広く展示した。
- 広島県立図書館の地域連携事業で当館には所蔵していない専門的な内容の資料を利用者に提供でき、医療関係者からも好評であった。
- 夏休み期間中に行われた、職場体験、インターンシップの生徒・学生に認知症に関するおすすめ本の選書と紹介カードを作成してもらい、展示に使用した。

取組・活動の成果や今後の展望

- 今回の連携の関係を活かし、地域包括支援センターでの高齢者施設の職員研修向けに「図書館の使い方講座(使い方や高齢者向けの資料の紹介)」の開催を提案した。短い時間ではあったが、60名近い方に話をする機会を得た。今後もこのような機会を活用し図書館をアピールしたい。
- 展示を通して高齢者サービスを今まで以上に意識するようになった。図書館職員の全体研修で認知症への理解や高齢者対応の研修を検討中。



展示「知ろう!アルツハイマー・認知症」



センターが実施したパネル展示の様子